

平成24年度 第3回公社等経営評価委員会 議事要旨

1 日 時 平成24年8月20日(月) 16:00~18:15

2 場 所 兵庫県庁2号館2階参与員室

3 出席者

(1) 委 員 佐竹委員長、田中委員、前田委員、吉田委員

(2) 兵庫県 企画県民部長、企画財政局長、人事課長、資金財産室長、新行政課長

4 議事要旨

「平成24年度公社等経営評価委員会報告書(素案)」について協議。記載内容について事務局より説明後、意見交換。委員からの主な意見は以下のとおり。

総括

時代の流れは速いので、スピードが遅いと改革は意味をなさない。

非正規職員が増えている団体があるので、その旨記載すべきである。

職員数の削減目標が達成できているとあるが、目標値が妥当であったか検証が必要である。

ひょうご震災記念21世紀研究機構

全国に対する情報発信をより効果的にする意味でも、東日本大震災研究との連携について記載したほうがよい。

兵庫県生きがい創造協会

高齢者大学は役割を終えたと思われるので、もう少し踏み込んだ提言をしたほうがよい。

高齢者の数が増えており、市場が広がっているという考えがあるが、民間や市町でも同様の事業を実施しているところが増えているので、役割分担の議論については必要である。

兵庫県芸術文化協会

厳しい財政状況の中、他にも芸術に関する事業を実施していることから、ピッコロ劇団については、廃止も含めて意義を検討すべきである。

数年前にピッコロシアターを建てかえたところであり、もし劇団を廃止するとすると施設をどうするのかという課題も残る。いずれにしても、存廃も含めた劇団のあり方の検証が必要である。

兵庫県健康財団

累積欠損が問題になっている団体として報告書冒頭に記載されているが、団体

の取組状況には、累積欠損の具体的な数値が出ていないので、記載が必要である。

平成23年度の健康道場は、前年度と比べて利用者が減少し、収益も減少している。また、基金の取り崩しにより黒字を確保している。現状等をもう少し書き加える必要がある。

ひょうご科学技術協会

スプリング8は世界的に見てもすばらしい施設だが、中小企業が使う施設としては少し敷居が高い。ただ、中小企業にとってもこの施設を活用することは有用であるので、中小企業に対するPRを目的に、経済団体との積極的な連携等の仕組みを検討すべき。

兵庫県勤労福祉協会

憩の宿事業が平成24年度から新法人に移管されたことにより、今後は収支の改善が見込まれるが、移管先法人で確実な経営が行われないと、また県による支援が必要だという議論も起こり得る。今後も移管先の経営状況について留意する必要がある。

ひょうご環境創造協会

調査・分析事業で民間との競争激化により収益力が低下していることは問題である。協会で経営改善に係る3箇年計画を策定しているということなので、この計画を着実に実行することを記載すべきである。

兵庫県道路公社

ネーミングライツ導入のために10社の企業ヒアリングを実施しているが、結果が出ていないのであれば、その旨も明記すべきである。

新西宮ヨットハーバー

民間企業が主体となった経営体制への移行について、結果としてあまり進んでないということであれば、それについて明記すべきである。

兵庫県住宅供給公社

オーナーには借上料を全室分支払う制度において、多くの物件がオーナーに返還される平成29年度までの間、できるだけ入居率を上げて収支改善に努めるために入居率85%の目標を設けているのだから、そのことがわかるよう記載すべきである。

借上期間が満了すると、それまで公社が実施してきた支援策がなくなるが、代わって県が何らかの援助を行うことがないよう記載すべきである。

夢舞台

前回の委員会で、民間出身社長の取り組みに係る検証が必要であると指摘したが、報告書には盛り込まれていないので記載すべきである。